雜俎

14
2478
48

諸勘例

門 14
號 2478
卷 48

公任官已後即位例

光仁天皇 元大納言

桓武天皇 元中務卿

光孝天皇 元二品式部卿

宇多天皇 貞觀十二年賜源姓卿拜任侍從

後醍醐院

△不二即位一後号二天皇一例 元

草壁皇子 号二岡宮天皇一 天武天皇太子文武天皇父

舎人親王 号二崇道盡敬天皇一 天武天皇第八皇子 廢帝天皇父

施基皇子 号二田原天皇一 天智天皇第二皇子 光仁天皇父

早良親王 号二崇道天皇一 光仁天皇第二皇子

△自二東宮院号一例

小一条院 敦明

三条院御子七和五年為二東宮一寛仁元年 押有

院号

△出家後院号例

後高倉院　守貞出家法名行助

高倉院御子出家之間不即位御子後堀川院兼
久三年七月九日御受禅仍同八月十六日爲太
上天皇

△賜姓以後三親王例

光孝天皇皇子
式部卿是忠親王

元慶八四十三賜源姓寛平三十二十九之親王　元中納言
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　從二位

□
太宰帥是貞親王

仁和三賜源姓任左中將寛平三之親王

醍醐天皇皇子
中務卿兼明親王

初給源姓天禄二十二任左大臣從二位　貞元二四廿四之親王二品

醍醐天皇皇子
上野大弁盛明親王
初給源姓任大蔵卿正四位下康保四七三親王
村上天皇皇子
照平親王
天徳四十二給源姓安和元十一廿七任右兵衛督従四位上
貞元二四十七三親王叙四品
須徳院四代孫
忠房親王
初給源姓徳治元十二廿二任中納言正三位文保三二十八三
無品親王元應元九廿任弾正尹

後堀河院皇子宗尊親王男
惟康親王
文永三十二廿給源姓任左中将従三位弘安十六五任中
納言右大将同十月四日三二品親王
後深草院皇子久明親王男
久良親王
初給源姓任左中将従三位後三親王

公皇孫親王例

光仁天皇皇子

早良親王——伊豫親王

冈

葛田親王——高橋親王

一条院御子

敦康親王——良子内親王

後堀河院御子

宗尊親王——惟康親王

後深草院御子

久明親王 ― 守邦親王 ― 久良親王

亀山院御子

恒明親王 ― 全仁親王 ― 満仁親王 ― 直仁親王

全明親王 ― 後崇光院御猶子 ― 恒直親王 ― 後柏原院御猶子

恒弘法親王 ― 後崇光院御猶子 勧修寺門主

後二条院御子

邦良親王 ― 康仁親王 ― 世平王 ― 邦康親王

太子早世

邦世親王

婧子内親王

静覚法親王 ― 後花園院御猶子 仁和寺

崇光院御子　号大通院　有院号ノ奉号ノ後崇光院

榮仁親王 ― 貞成親王

後花園院 ― 後土御門院 ― 後柏原院 ― 後奈良院

貞常親王　伏見殿　中務卿

二品

貞康親王 ― 邦房親王 ― 貞清親王 ― 貞敦親王 ― 邦輔親王

二品式部卿　二品中務卿　二品中務卿

異本ニ如此有ラシ

邦房親王 ― 貞康親王

後陽成院御子　八条宮

智仁親王

智忠親王　智ノ字

良尚法親王　三曼珠院門主

良恕法親王弟子

八法皇之例

宇多院　昌泰二十十四御出家承平元七十九崩御

朱雀院　天暦六三十四御出家同八十五崩御

冷泉院　寛和元八廿九御出家正暦二三十三崩御

花山院　寛和二六廿二御出家寛弘五二八崩御

後三条　延久五四廿一御出家同五月七日崩御

白河院　嘉保三八十四御出家大治四七七前御

鳥羽院　保延七三十御出家保元元七二前御

崇徳院　保元元七十二御出家七寛二八六前御

後白河　嘉應元六十七御出家建久三三十三前御

後鳥羽　養久三七八御出家修延應元二六二前御

後嵯峨　文永五十五御出家同九二十七前御

後深草　正應三二十一御出家嘉元二七十六前御

亀山院　正應二九七御出家嘉元三九十五前御

後宇多　徳治二七六御出家元亨四六六五前御

伏見院　正和二十七御出家文保元九三前御

後伏見　元弘三六六御出家延元四六前御

花園院　建武二十一六御出家貞和四十一十一前御

光厳院　觀應三八八御出家貞治三七七前御

光明院　觀應二十二六八御出家康暦二六四十前御

崇光院　明徳三十一六御出家應永五五十三前御

後小松　永享三三廿四御出家　同九十廿前御

後花園　文正二九廿御出家　文明二十二廿七前御

光孝帝　慶安四

後水尾　同寛永八八十九前御

右合廿三代也ヨノ外聖武孝謙平城清和モ御出家ア
レトモ法皇ト八申サル乎醍醐一条院八御病ヲモノ十リ
テ御出家アリ仍不入

△是武将軍之勘例　畧須ク内

田村麿　延暦十六十一丙戌任

源頼家　建仁二七廿三任

藤頼経　嘉禄二正廿任

守邦親王　延慶元八十任

源義滿　應安元　任

同義教　正七二三十五任

同義政　文安六四廿九任

源義尚　文明五十二十九任

同義稙　枝尹　延徳二七五任　永正五七一再任

同義澄　通高　明應三十二廿七任

同義晴　大永元十二廿五任

同義輝　藤　天文十五十二廿任

同義昭　乃孝　永禄十一十十八任

同義榮　ヒテ　永禄十一二八任　干時左馬頭

義澄
- 義晴
  - 義輝　左馬頭　同九月薨　公卿補任ニ見ヘリ　傳記無所見乎
  - 義維　義榮

△外記史申拜賀ニ例

康富記曰文安六年四月廿九日少外記康継申右少史兼任ニ拜賀　次第畧ニ申次藏人奉行量也

同記曰宝徳三年八月廿三日新大外記中原师幸申拜賀

申次藏人中務丞原定仲也

△一人勤外記史内記三度之例

康富記曰寶徳二年九月九日止而奉幣也外記康顕史兼
橘貞職少内記康顕也貞職依遠例不參問康継可勤代
由也康継又遠例由云〻康顕又勤史代者也
同記曰宝徳三年八月十六日勤幸也上卿花山院中納言
家嗣卿 外記康継 右少史也又從内記代
同廿六日止而奉幣上卿日野中納言 資綱卿 鋼 藏人頭在中
兼行 弁親七 官方 兼行 弁少外記康継 右少史也官方兼行
又勤少内記代

△諸衙外記史着階下座例

康富記曰享徳三年正月十六日節會如常 暑次上官着
階下 南階以西也 官務局務弁六位忠種康継後職以上六
人東上南面也此座應安永和以後中絶去宝徳朔旦冬至
時上官着階下此例也復旧儀者也兼内〻申職麦〻
仰修理職令設打板掃部寮設座薹上各半帖一枚

△節會圖栖奏之

康富記曰應永廿七年正月十六日節會如常畧之献酒栖
奏内弁下殿以官人召外記令問
栖奏令揖退令召使催之近衛此躰不見及其由弁也
令服參跪申奏之由

△召使勤宮主并祝役之例

康富記曰文安四年六月廿日今夜大祓召使秀周勤宮主
役云云

同十一月廿五日今夜園韓神祭也上卿寺中納言源持
康卿左中弁教忠朝臣少外記康顕召使久継等參行
内侍不參久継勤神祇官祝師役云云

同記曰宝徳三年十一月十八日園韓神祭也上卿寺中納
言明豊卿寺右中弁綱光外記康継召使秀周内侍
不參也秀周申祝

同十九日鎮魂祭右大弁宰相教忠卿弁不參寺少外記

康継召使秀国　兼神祇官宮主内侍等参行

△召使不参陣官人為代例

康富記曰享徳三年正月七日白馬節會少納言不参以右
少將藤雅国為代内竪康興四品為式兵輔代右次將不
足以左中將教国為右也召使不参以陣官人為代

△少納言勤弁代之例

康富記曰文安六年四月二日今日
上卿大納言實雅卿弁不參少納言平有政朝臣爲弁
代參向神祇官

△大外記三人參役之例

康富記曰應永廿七年正月十六日節會大外記師胤朝臣
同師勝朝臣同師世左大史長俊爲緒宿祢同
參陣

同廿九年正月十六日節會大外記師勝同師世朝臣同師
卿朝臣寺大外記師野等參陣

△關白以前門覽之例

堀川關白　天祿三十一廿七任内大臣即日爲門覽

通長公　御堂殿　長德元五十一門覽　平時手大納言左大將

師實公　京極殿　兼保二九廿六門覽　平時左大臣左大將

忠實公　知足院殿　康和元八廿八門覽　平時手大納言左大將

兼實公　月輪殿　天治元十二廿八門覽　平時左大臣

兼通公

良経公
後京極殿　建仁二十一廿七民長者門覧　千時左大臣

右康富記ニ門文安五年八月ニ所ニ見タリ

△少外記叙爵ノ例

類聚国史百一日貞観十九年正月三日陽成天皇
即位ノ日正六位上少外記惟良宿禰高尚
位下
元慶元年十一月廿一日正六位上少外記惟良宿禰高尚
叙従五位下　左兵衛大尉少外記忠宗朝臣是行
叙外従五位下

中原宗親　保延三四三任右少外記元大舎人允
轉正叙位

武智九ム五代孫

藤元方 大納言 民ア卿 致忠 右京大夫

保昌 勇士武略長名人也 正四下 長元九九卒 年九

女子 原蒲仲室河内守頼信女

経基王子蒲仲弟蒲政十代孫 四代孫

原光季 豊前守正五位下

光行 歌人千載作者 河内守大和守 大膳進 民ア丞 正五下 後鳥羽院北面

親鸞上人ヨリ十四代　自是本願寺二流分

△光佐　法名顯如　号信玖院　權僧正　文祿元十一廿四遷化

東本願寺

光壽　大僧正敎如　慶七十九十五遷化

興正寺

佐超　顯尊　權僧正

昭玄　權僧正

昭超　權僧正

西

光昭　大僧正准如　寛永七十一九九遷化

光照　大僧正良如

光寿　大僧正宣如

光沢　大僧正琢如

光英

東本願寺

光従　大僧正

光演　大僧正

光瑩　剃髮元祀院越後

光現　大僧正

光淳　大僧正

光常　大僧正

光闡　大僧正

光遵　大僧正

光勝　大僧正

光晴　大僧正准如

光演　大僧正

光瑩　剃髮元祀院越後

光現　大僧正

光淳　大僧正

光常　大僧正

光闡　大僧正

光遵　大僧正

光勝　大僧正

△諸大史下北面ス劍

武智九立男巨勢九立男真作ヨリ七代孫

藤親房　雅示頭　従五位下

時忠　下北面　従五下

佐時　玄蕃允従五下

△官掌補主典代例

中原威信 麦福州院主典代

中原威継 史大和守
子孫候北面

中原国保 史筑後守

△内舎人任史例

大江依忠 天永元十任右少史 元内舎人
轉左任壹岐守

中原朝臣

本姓十市宿祢天延二年十月改宿祢賜朝臣 安寧天皇第三皇子磯城津彦命之後也云云

勝良 従五位下 太宰少貳

師尚 大外博士

師任 高橋

師重 大外博士 為家猶賜文書云云

師綱 正四下 大外博士

師季 秀行

師光 大外博士

春宗 少外博士

有衆 従四下 初賜中原姓

師孝 大外博士

師遠 大外博士

師元 高橋博士

致時 従四下 博士

師兼 高橋

師顯 載高院別當主計頭肥前守大隅守
大炊頭弾正大弼 虎勢博士正四位上
所載職原抄之三条外記是也

大外記 造兩正
此子孫論旨武家ノ奉書ヲ引破ル
咎ニ依テ被所罪科大炊寮領被没収
請文

大外記 中家性存
師勝 大外記雅永頭藤ノ

師貞 大外記
師親 遵世

師孝 大炊頭不任大外記
自幼武被處罪科
師孝知行分大炊
寮領等被下請
廿納言葉一之
後伴一院斷絶也

師有 直講正五位上

師富 大外博士
師古

大外記
師村

大外記 博士
師宗

大外記 掃部頭
師淵

掃部頭
師陰

掃部頭
師千

大外記
師香

師稱
師廉

大外記 掃部頭
師郷

大外記 掃部頭
師富 法名覚城

師兼

仲隆　書博士助教　少外直講　正六下

仲宣　博士助教　少外直講　正六下

逢尚　博士助教　少外直講　正六上

仲尚

仲方　助教博士　少外正五上

直方　助教博士　少外正五下

直尚　助教博士　正五上少外

尚顕

仲季　少外博士

右仲季三ノ断絶ニ付不任大外記歟尚顕ハハヤリヲ家トミヘタリ當家ノ仲隆ノ別レトミヘタリ

康綱　才大

康隆　才大

重貞　才大　以上三人不叙爵

英隆　才大　叙爵　隼人正

康顕　左兵衛　隼人正　少外　少門

康貞　隼人正

康雄　左少史

康富　中務才少輔　隼人正　口向并　才大　少門

康純　左少弁　才大　少門

康政　少外右少　号徳庵

賢好　少門　依為清家秀賢朝臣子　門弟清原ト改姓云云

原融 侍従

昇 大納言

仕 武蔵守

宛 無官

綱 門部舎人

以下
3丁
白紙

萬覚書

文殿別當史頭左右史生二人
厨家別當少納言外記史各一人頭大政官并左
右史生各一人並一年為限
月部并職掌 神祇式外宮女人アリ口ノ中ニ宮主ニ
是ハ神祇官ニ卜部女人中歴氏ノ中器量ノ
任ズル者ヲ職掌ト云
若条主ニ中臣ノ中ノ職支人
イヅレニテモ表ヲ久ク職掌アル官ノ職支
ト云女官ニモ職掌トナヅケ其

外ノ敬支ト云ヘリ

位田支

令条ニ六位已下八位田無シ唯武天皇ノ御時
ニ従七下初位ニテ位田ノ給ノ由續日本紀ニ
見タリ

隨身ノ

將曹府生舍人已上隨身也將曹府生ノ上
爾ノ隨身ト云騎馬也仗下ハ歩行ス

小隨身ノ

果下馬ニ乗リクダサレ子ドモ中少將ノ子ノ
イマダ元服セヌ程ノ小隨身ト云ヘリ

衛府ノ

番ヲ作ル

陣ノ

陳官人

隨身ノ功ノヘタル老ヒ

布衣老

五位已上ニ召具スル也六位已下不召具ス

朝臣書ク

四位ハ節會ナドノ散状其外ヒトリダチテ人書付時ナドハ上ニ少ヨウニ某朝臣ト書ク位署書連署ニモキハイツレモ朝臣ノ下ニ名ノリノ書御能御會ナドノ上ノ状ノ時ハ大臣ハ左大臣右大臣トバカリ書納言ハ唐橋大納言四位中納言ト書殿上人ハ後唐朝臣ナド、書ク

親王

皇子并御兄弟ノ人親王ニ准ズ或諸王ニアリ

一代二代後ニモ親王ニナルハ天子ノ准后ニナリテノ准后ハナキヲ故親王ニナルトイヘドモ親王ニナラズシテ諸王ニテ終ルモアリ

諸王ハ一世二世ニヨラズ親王ニナラヌヲ云

諸王ニテハセツタヘバ王ト云ツキテ白丁ニテ

法親王

北家ニナリテ後ニ親王宣下アルヲ法親王ト云

入道親王

有親王ニテ出家アルヲ入道親王ト云是ヲ

規模モ大ナル也

外従五位下

姓ノ下ニ朝臣ノ叙位ノ時スグニ五位ニ叙スルヲ外従五位下ト云ヒ其後年ノ叙位ニ従五位下ニ叙スルヲ内従五位下ト云ヒ又八省ノ丞ヨリ八省ノ外ノ五位ニ叙スルヲ八省ノ丞ト云ヒ又八町ノ丞ヨリ五位ニ叙スルヲ八町ノ丞ト云ヒ又蔵人ヨリ五位ニ叙スルヲ蔵人ノ五位ト云ヒ又検非違使ヨリ五位ニ叙スルヲ検非違使ノ五位ト云ヒ又諸司ノ判官ヨリ五位ニ叙スルヲ諸司ノ判官ノ五位ト云ヒ又諸国ノ掾ヨリ五位ニ叙スルヲ諸国ノ掾ノ五位ト云ヒ又諸家ノ三位ノ家司ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家ノ三位ノ家司ノ五位ト云ヒ又諸家ノ侍ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家ノ侍ノ五位ト云ヒ又諸家ノ雑色ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家ノ雑色ノ五位ト云ヒ又諸家ノ随身ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家ノ随身ノ五位ト云ヒ又諸家ノ牛飼ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家ノ牛飼ノ五位ト云ヒ又諸家ノ舎人ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家ノ舎人ノ五位ト云ヒ又諸家ノ下人ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家ノ下人ノ五位ト云ヒ又諸家ノ従者ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家ノ従者ノ五位ト云ヒ又諸家ノ家司ヨリ五位ニ叙スルヲ諸家

科戸ノ風（シナドノカゼ） 神祇式八祝詞巻二

根固ク詞也

堅義（リウギ）

山門ニテ行ヒノ堅義ト云他所ニテ行ヒノ別請（ベツセウ）

堅義ト云ヘリ

宿官

任満除用ク而書曰宿官ハ今年新叙爵ク
外記史式部民部検非違使等依巡可受領

輩待其巡ク間前ニ別宿任
弁官ナドノ職変ヲ兼タルガアトヨリ職変ヲ乞ル
時願ハシカヘテ又旧先職変ヲ許ノ分ハヤ
ニテ叙ル願ノ如ク待サヾ宿官也

空勘文（ウツフノカモン）

女叙位ニ時有ク江次弟抄曰空勘文ハ月後朱雀
院御時不載可叙ク者只載例許也則是外
記不知可叙ク者只依毎限加階叙爵例不論
其筥月注載ク者也至男叙位者知可叙ク者
所勘載例并叙人也故称空勘文

吉服

十二年時着用スル礼装束ノ事也

凶服

ナガシ又ハ時着用スル礼服也

ミノフノ小忌服

中院通方卿鏘抔曰處暦度予見之麻布麁悪物也四幅身二幅袖左右各一幅九四幅也仍紙捻開ク前方両方引合テ挟帯前方ニ左右引違(キスウハテツヲ)上手也今度通氏朝臣ノ

庄ノ曰布美麗也如秋摺之或ハ後方ニ帯下引違(スル)三所ノ中ニ云云大葦會若豊明節會小忌袍着次ニ只如ク諸服ノ袍禁ニ小忌ニ許也今度下襲ノ庭ハ廣ク小忌庭ハ狭ク面ニ畳成ス方ヘ引寄テ折之懸後庭ノ折目ノ本頭ノ右方ヘ引出ス小忌多見也

雖ニ衛府ニ至テ小忌闕腋也但平治元大蔵卿七成着位袍

藍ニテカタノスリツケ又ハトル見タリ

詔書
キヨメヂヌリ仕宣ノ名ニ兒故詔書ト云参議八左
書ノミヌ正宣ニヤラヤル故也
交野（カタノ）
諸人交リテ（マジハリテ）鷹ヤリ（タカヤリ）スル野也
禁野（キンヤ）
諸人禁制ス野也
門籍（モンセキ）
諸門出入ヲスルヲ也
三下者式部奉行六位
葱花（ソウクワ）（ギボシ）
ギボシノアルコトシノ葱花ト云ヒ鳳ノアルコトシノ鳳輦
ト云也ギボシノナリハヒトモヂノ花ニ似名故ニ葱
花トモキヤウボシトヨム
中男作物（ナカヲトコノツクリモノ）
中男ハナイクノ中ナル者ノ云

摠在廳務

治喪有ハ僧ノ支ノ元省也ソコニ每ロツメテ僧ノ支ソトリアツカフ者ヲ云威儀師八人従儀師六人有リ威儀師ノ前ヲ云也

已日(ミノヒノハテ)被

三月三日ノ被ヲ云也

語部(カタリベ)

主殿寮ヘ下ニ有之大輦會ノ晴ニ役ヲ奉ル者ノ

今良(コンリヤウ)

イマヒイリ

男一百四十一人女二百廿六人主殿弐ニ有殿上ニノ名卿殿上人ナドニ仕ハル、者ヲ

主殿女(トノモノメ)

女儒(ジュ)ノ支ノ

受禪(ジゼン)

先内ニノ御位ヲユヅラルベシトテノ諸家ヘ仰テラレ又ハ御俾受ケトウケラルニノ受禪ト云也

譲位

表向ニ御位ノユヅラルヽ儀式ヲ云ヽ

践祚

神祇令曰謂即位謂之践祚

受禅アリテノ先御位ニツカセ給フノ践祚ト云ソ

即位ハ表向職掌ノ政ヲルニヨリ御位ニツカセ給フ

後一年二年或ハ五年十年ヘダヽリテモ即位ノ儀

式アルトモアルモ是ハ乱世又ハ男脚ナドノトヾ

ニシリニヨリテノヽクニヽヅハ践祚アルト其ニ即

位ノ儀式アルカ本式ノ践祚サヘアレハ即位ノ

儀式ニヨラス御世ノ中也

倭文

無文紬也

吉上

近衛下司也門ノ開閉スル者也

日蔭鬘

ヒカゲノカヅラ

冠ニ糸ヲサヾルヲ云

釵ノシルハカセトヲ
假名遣曰漢王ノ釵天下欽亂ノ時老倒臥ニ
吉凶之間名ニ御ー博士ニ卜
勞ヲ
江家次第曰式部判官記曰老十丈二廿上廣二廿
七寸十廣二十四分厚二分
百度座 釋奠
汗次第曰令案度謂ニ大炊寮之飯ヲ
文屋童
大學寮謂ニ文屋ノ童ヲ教ニ學生ノ者ニ文屋童ト
聰明
歴ノ支ヲ釋奠ノ後朝供ニ夫ニ
荒深
退紅位ヲ也退紅多
後取
元三御菜之時堪ニ大飲者奉仕四位五位多非職

之雲客也

御膏茉

元三御茉ノ時カラヤクノ名ノ有ニ多ヤクノ号也

近江火切

餅之生所也

兼足

七一尺六廿許高廣五廿許押赤両面錦者也

童帝時置之御沓成人時不用御足ノモノ名ヲシラス

多久二御倚子前ニ立多久

大儀

即位朝賀等也廿着礼服

中儀

白馬節会豊明等也刀祢奴上頭列

小儀

元日踏歌等也読文頭之中小儀上下皆着

常袍

三節御酒 十三年

元日廿六日供之故曰三節比少抄白耳精也

行立次第

公式令曰凡文武職事散官朝參行立者依位次
爲序位同者五位以上即周叙位先後六位以下周叙齒謂齒齡也

外任奏

諸國守介等或任符未給或雖給任符未赴
國之時朝參預三節會之時外記注其人名姓
未給之前就内弁奏聞迨給之時仰可候列
之由外記差上宣仗件宣旨給中務大藏式
部令載見參也外任奏依遥次第以五位列四
位之上然近代只任位次書之兼官并昇殿人
不載之

鳥曹子

在秉明門外東之角

屬星（ゾクセイ）

牛車ノ星ノ事ナリ

黄枹（クワウフ）御袍（ノゴホウ）

文梧竹鳳凰也

青（アヲ）海波

青ク海ノ波ノ如ク也

出車（イダシグルマ）

牛ノ素車也

議所

センギノ所ノ事ナリ

陣

サキノ又所ニアテヌヲ十列居ル所ヲ陣ト云ナリ

侍從列　節會

江次第抄曰或抄云次侍從四位五位之中以有年勞者補任之神祇官一人大少副少宮中少丞諸司七条主

官 内膳正諸陵頭 次官八省大少輔 外衛佐 馬助 諸道博
斎院七官 内蔵助
士大夫外記内記蔵内匠司 義乃守 散位筆等皆
補之
私案侍従之職者侍於天子之左右補闕拾遺者
也假以他官人任之八員之外謂之次侍従近代
無員數唐朝之制亦南書翰林掌士兼直翰林
掌士御史中丞所尹亦侍即給筆中書舎
人庫直諫儀大史等為侍従
中少将ナドモ次侍従ノ中ニ

近仗

謂近衛次将也

諸仗

謂近衛兵衛也

近仗称警蹕ノ

出警入蹕唐礼也故天子出御之時近仗称
警入御之時称蹕也上古其音高聞也

又手

左右指ノ入ル也

居追物（モノノ）

莽ノ云也

綿一絇

十六両ノ云ヘ

綿一屯

共行ノ云ヘ

包焼（ツミヤキ）

鮒焼物也

手製束

半両籠ノ云ヘ

不行二大饗大臣

任大臣不行二大饗一人者不向二正月大饗一所一二

立作所（タチヅクリトコロ）

大饗有二料理一所二立作一也

着物之所也立作者當座調進着物之所也

穩座（ヲンザ）

非二嚴重威儀之座一前他行懷故曰二穩座一

卵重（トリノコガサネ）大饗

江次第抄曰紅御上重白御上重白一領爲二鳥子重一

女裝束一具 大饗

江次第抄曰白大御一重上重紅打綾御一領

纐纈衣（エビゾメノカリキヌ）

柚ノ色ノツキ名時ノゴトクノニ深ナスリ云ヘリ

閤門（カウモン）

江次第抄曰宮衛令レ注云凡衛門府守二謂之宮門一兵衛府守二謂之閤門一

令二禁遮一礼門者宮門永明門者閤門永樂永安門者閤門

也

馳道

江次第掛白馳道ハ禦ノ路也當ニ南階ノ庭中ニ也

親族拜

江次第掛曰内裏式ニ被ニ叙者ハ親族在ニ堂上ニ拜之

坊家奏

江次第掛曰北山抄云ヒ載奏五曲有ニ大曲一曲ニ云云七月十六日共有ニ坊家奏ニ而七日ハ別當如ニ暑

十六日不加署ノ何ノ手ヲ哉ト答曰七日奏者奏文載奏ノ
同録故加署十六日奏者奏者無ノ署ハ故不署

褂

ケサ裝束ノ云ヘ

逆退

官ノ十ニクダサルヲ下ヲリ辞退スルノ云ヘ

四府

左右近衛左右兵衛ノ左右ニ各十二人或衛門兵衛ノ

ニテ人四府ト云ヒモ布也所ニヨリ意得違フ

放免（ハウメン）

赦ニ入十ケ二九大者ヲ赦ス

原免（ゲンメン）

獄令ニ元ニ元ストヨミタリ

叙任（ジョニン）

院衛府ニカギリ北面也向川院御時分ニ始ル于院中三ケ佛ダノ掃除ナドスル者也其外院中ノ御法事ナドノ時佛前ノカザリナドスル者也禁中ニ叙任ト云ハ十キノソ

四府（シフ）

近衛兵衛ノ駕輿丁ノカニヲヲノヨウナル者也カニヲヲ輿（ミコシ）モトヽ云ソレヨリハスコシサガリタル者也圖書寮ノ下三毛兵部（ヒヤウブ）ト云者アリ于紙スキナドヨリハアガリ四府ト云人ト云者アリコハ駕輿丁ノ中ノサタノスル者ノ

禁色

綾ノタグヒ又ハ表袴ノ文ノ窠霰（クハン アラレ）鷹（イレスミ）ナドハ么卿ノ外ハ着ザルベシソレヲ元ト云殿上人ニテモ大臣ノ子ニゴニデハ着スルヲ蔵人若頭五位六位ニテノニルサル着スルベシ

礼節旧吾所

九条二条或ハ勧修寺ナドハソノ家ノ称号ソカクノゴトシ

同上所

コレハ文ノ表ガキニ進上謹上ナドカツ〳〵

散位

諸官前官ニテハ位田職田以下ノ処行半分アガルベソレヲ散位寮取アツカヒ勘定メソノアガリタル半分ノ米ヲ穀倉院ヘシサムルソ前官ヲ散位ト云ヒテハ散位寮ヘ入故ニ又ハ散ヲ三ツクルトヨハ其心ハ位ヲ一ツケテ官ヲ待心ソ神ノミモ散斉致斉ト云ヒアリ前後ノ散斉ト云ハソノ

時モ散ジ一ウルトヨム斎ノ心ノ擬開
以下前官散位トカリ
トモヨム

正蔵院

大蔵省ノ

天皇号ノ院号ニ

神武天皇ヨリ村上天皇ニ至ハ天皇号ソレヨリ
以後ハ院号也コレハ上古ハ前御アレハ御陵ノ

ツカレ御料所ノヨセラレテノ諸陵寮取アツカウ
ソレニヨリテ天皇ト申スト中古ヨリハ前御アレド
モヒノカニカクニ寺ヘ御幸ノ由ニテ么御ナド
供奉ニノサテニワカニ寺ニテ崩御ニ由
禁中ヘ奏聞ス御遺言ナトアル由ニテ遺詔ノ
宣下ノアルヘサテノ寺ニテホウムリ御陵ノ
ワカニ又石ナニノ院トバカリ申又安徳天皇後
醍醐天皇ナドハ後代ナレド吉野ニ御陵
ノツカルニヨリ未皇ト申後代ハ御領斬モス

クナクナル故ニソノヅカラ御陵モツカレ又ク
持統天皇ヨリ以来太上天皇号ハアレドモソレハ御
存生ニ御座ノ時ハ天皇号アレドモ崩御アリテ
御陵ヲツカヌヨリ中古ヨリハ院号バカリ
ソノ上異朝太上天皇尊号ノ於漢高祖皇帝被始ルニ
習名氏

コレハ内膳司ノ高橋氏安曇氏ナドノヨウニ他流
ニモゼスメ一流ツタハリキタルヲサシテ云ヨノ
外ニツタヘリイヅレニテモ皆ヨノ心ノ

習名入色（ソノ上ニ）

一ニ他流ノ者習名氏ニ入ルヲ入也ト云ク

英雄（エイユウ）

千人ニ過ノ英ト云万人ニ過ノ雄ト云ク

卯杖（ウヅエ）

上古ハ金銀ニテ槌ノカタチヲナタ十ニシタル故ニ卯槌（ウヅチ）ト云今ハ
杖ニスルヽ卯槌トヲモヒヅエトヨムロ傳ハ杖ノ
七ツ尺ヽ杖ノ中ニ令保（ムボ）ヨト云木アリ是ハ今ノ

世ノヤ十メノ木ト云者乎

蘇ノヤケ声

巷楊花(ヤノハ)交空林秋(アリ)園(ノ)

綾小路宮　徒然草

亀山院

後宇多院

性恵法親王　綾小路宮

妙法院

尊教僧正弟子

露葦

仁壽殿ニ有之乎

勅書使不下馬之

侍中群要曰御書使於路頭雖逢大臣已上不下也

内記不小庭ノヤ

康富記曰嘉吉二年十月十九日七社奉幣也畧次上

卿召内記参軾依内記役不候小庭直

全參軾是先例家說也

ヨノ時康富六位ナヤ少外記少内記也

歎状（ケハギヤウ）

タヽ申スト云心ノ

致仕（チシ）

小学ニ明ニ君臣之義ノ　吉月ハ心朝服ノ而朝ス
朱子曰吉月ハ月朔也孔子在テ魯ニ致仕（十ヒ）ノ時如此
康富記曰應永廿二年正月十六日　抑致仕ノ
公卿ト云ハ七十已上ノ人ノ云者也雖不參心七
十以上ノ公卿ノ人ハ入見參者也

中務式曰凡次侍從已上年七十以上者雖身不ト
參給ニ節會ノ祿ヲ一

見參

康富記嘉吉三年四月ニ一所曰藤家ノ氏人會參ニ出仕ノ召官ノ人畏ニテ
ツラヌル者也春日吉田大原野梅宮ホ是皆一同也
平野祭見參
才中納言藤原一

左中弁藤原――
梅宮祭見参
中納言藤原――
五位
藤原朝臣――

除目ニ闕正忠不被任ル
康富記文安六年三月廿八日ニ聞正
忠ハ不被任事也口傳也　聖廟御拜任之後有ニ
子細一

倚子几子床子ノ事

儀制令曰五位以上並給牀席六位以下並給座席ノ
禁中ニテハ主上太子ハカリ倚子大臣ヨリ中納言
ニテハ几子参議ヨリ五位ニテハ床子三位宰相ハ
獨床子四位宰相ハ七床子六位以下ハ床子ニツ
カザルヘシ　太政官ニテノ政ノ時ハ大臣以下大納言

臺盤

内匠式云臺盤七八尺廣三尺二寸三分　臺盤七四尺廣三尺二寸九分　臺七七尺六分廣二尺卅八分　臺盤臺七三尺二寸廣二尺七寸高一尺九寸六分　臺盤臺七三尺二寸廣二尺三寸高一尺卅六分

上古ハ臺盤ト臺盤ト二ツニ仕ウケ臺ノ上ニ臺盤ヲノセタリ近代一ツニトリ付タリト見タリ高坏ナドモ或ハ二ツ重ニ(ホソ)シテ高坏盃ニノセ或ハ一ツニシテ高坏盃ト云ノ外ニ一ツニトリ付タリ今ハ一ツニトリ付タリイハヾ高坏盃ト云ノ事ヤ

紫宸殿ニ出御ノ時ハ御帳臺ニ御着ノ故御膳ヲ采女臺盤ニ居ル人自余ノ御殿ヘ出御ノ時ハ陪膳采女ニ居ル人大床子ノ御膳ヲカケラレテ御膳ヲ居ル人大床子ノ御膳ヲカケラレテ賀正朝拜ノ始臺盤ニテ御膳ヲ大床子ニハ御膳ヲカケラレ

神武天皇元年ニ始ル由見紀天孫紀ニアリ

中右記仍者

右大臣藤宗忠公ノ等地下王卿ト云ヘリ

常ニ御前ヘ不召勅下ノ中御厨　右大臣

御代十ヨカリ久シ昇殿七ヲ召ス時ハ參
内セヌノ外ニ
衛重
今ノ世ノクギヤウナドハ云者ノ躰ヤカリソメニ調ヘ
儲ル小牛折ナドノ躰ニ飯又下ノ食物ノモリ
備ル
改元ノ事
甲子ノ革令ト云革命ト云

改元勘者宣下ス
康富記享徳四年七月ス廿云改元勘者宣下勘
者ヲ宣廻覧ス支非三木ノ前二位三位二ハ処博
士成宣卿也経三木ニ人二ハ前宣ト云ヲモ摘処
當職可廻覧ヲ宣也是儒家ニ説也中家二ハ経
三丈人ニモ非當座時ハ摘成宣卿
右康富記ノ卿如此然レトモ今案スルニ勘者綱言
三木メリト云トモ職支ノ口宣ノ外記其所ヘ
持參スル支ハアルマジキ事也外記行向ヲヘハノ
チヅカヒノ宣下ノ言ヲメスベキ支カ外

記行向ずル時ハ細言三木メリトイヘドモ博士ノ
コトク宣上ヲノ十ミ史生ノ也スベキ支也ロ宣ヲ
廻覧スル支ハ近代ノ支ト見メリ一刀ヲ改元ノ
時東坊城知長卿高辻豊光トモミ文章博士メリ
トイヘトモ知七卿ハ冬議メリ豊光ハ五位メルニヨ
リ局務師定朝臣談合ニテ宣旨別ニ調ラルベシト
云云知七卿三木メリトイヘトモ文章博士カラモ
テダル故宣上ヲノ十スル由ヒ先例三木文章博士
負任ノ例避迹ミ支也コトニ改元勘者ノ時ノ
先ヲ所見ツベビラカナラズトイヘトモ今案ノ
ニ又テ知七卿ヘハ宣旨ヲノ十スベキ由局務職後
談合アル故其旨ヲ存スル由職後返答申ト云云
三木文章博士ノ負任ノ例従迹ミ也其時ノ記モツベビラカナラ
リ其中ニ和七卿ニ三木ニテ博士ヲ負任ニ改元
勘者ヲ勤メラルベシ今度東坊城大納
ナル由局務師定朝臣物語ス今度持冬仕申サズハ定メ
言七維卿ヘハ口宣職後持冬スベシ此条モ口宣
持冬ナリケヲヤツカラ宣下ノ上ヲ申渡ニニカル
ベキカノ由局務申ナルベトイヘドモ近年皆持
冬仕リ来ラルニ因テ今度持冬仕申サズハ定メ
テ七維卿ヨリテ細ノ申スト云トモ定
メテ七維卿ノ答点ニ入ベキ因テ先今度ハ先ニ

ノコトヲ又宣持参ヲ仕リ重テ改メラレ然ルベキ
ノ由職俊申シテ持参ヲ仕ル者ハ口宣トメラカ
ルベキカノ由長維卿御申シ故職俊申メ云
ク宣ハ外記局ニ後代ノ案トスルアルトメシカルク
支ニアラザル由申シテ取カヘシ局務ヘカヘス
者ヘ子細万沿改元ノ分配ニ書置トモ云
又勤者躰言ハ上ニアラザレハ外記 宣旨ヲ女史生
改元年号ヲ勤文ニ
ヲ以テ上卿ヘ奉リ申ス者ハ此勤文ヲ
公卿ノ勤文ハ其人ヨリ直ニ職支ニ付テ奏聞ア
ルヘシ博士ノ勤文ハ局務ヘ付テルヘシ故ヤ外記
ヲ以テ上卿ヘ奉リ申ス者ハ此勤文ヲ

上卿ノ亭ヘ持参スル支近代ハ大方一藺持参スル
ヤウニ成来レルヘシ然レトモ先例ヲ勤ルニアラネハ
一藺ニ限ラス時ノ分配ノ外記ニアラカヤ
見タリ其上此支必一藺ノ後トモ定メカタキ
支十ル故万沿改元ノ時局務ハ沙汰セラレテ
分配ノ外記定慶ヲ
時ハ必一藺ノ後ヘ勤者宣下ノ
ハ分配ノ外記也先例不同時儀ニヨルト云云

改元ノ時條令定ム儀式ノ行十八ノ八

條更定ミアハ又人ハ改元定ノ上卿ノ勤ム支十ヲ
又故近代必改元定ノ前ニ條支定ノ儀式ノ行
十ハル、若也先年條更支定并ニ改元定等ニ從ヒ給
ヲ人上卿ノ勤メ給ヲ時ハ今更條更支定ノ儀
ノ行ヲニ及ハザル若シ

宣旨給

センジノタマフベト讀カロ俾也

詔書御畫ニ

公式令曰年月御畫日宛ニ云御畫日謂御
書言故更白御筆ノ聖斷
奎ハ星ノ名也奎四星ノ出ル八大平ノ時也

回祿ニ支

書言故更白秡ニ火災ヲ白遣ニ回祿ニ彦傳昭公十八年
鄭ノ未鷹禳火於ニ玄冥ニ回祿ニ玄冥水神回祿火神

候豫ス〻目

二月廿八日ヨリ三月ノ節ニ入テノ後四日ニテ九
候豫也

銀ヲ丸初ス〻ル

天武紀白三年三月庚戌朔丙辰對馬国司守忍
海造大国言銀始出于當国即貢上由是大国授
小錦下位ヲ丸銀有ニ倭国ニ初為ニ于此時一

万桟之句

新帝即位ノ後始テ改ニ元ヲ絵ヒ行十八ノ
万桟ノ句ト云ヘリ

新所之句

内裏新ニ作ラレテ後始テ南殿ニテ行十八ノ
ヲ新所ノ句ト云ヘリ

二九ノ色

花鳥云延喜十七年參議三蕃清行請禁深紅衣

服奏議曰凡淺紅輕黄及火色者不在制限
七保元年太政官府云紅紫服垜防令存中袴直
袍下襲之類或是用紅或亦用紫誠雖禁深除
未曽制其淺色
弁藁紅紫ハワカ牛色ノ禁色トナヅケアサキノ云
ヒ色ト云制禁ニノヨバズ冬モ着用スル故也常ニ人ノ心
得ル処ハ禁色ニテ冬ヤスノ着用セズ云サレテ用ル故
ニワカ牛色ノ云ヒ色ト云説アルハアヤマリ也

表ノキヌ

裏ノ色ノ表ノ袍ノ

源氏ノ女巻云ノヒカイモトヲアルヒハ十ハタ。ヒサウニハベタノ
ヒカイモトハ垣下ノ
甚ク。ヒザウハ非常ク
ヒノヨソヒ
東帯ノ裏ヒ
トノイスガタ
ナヲシ
直衣カトノイスガタト云ヒ

圀簿
フダ

宮衛令曰凡圀簿ノ内ハ不得横入ヲ諜ル圀簿ヲ者圀ハ簿ノ行事ノ時ノ行列ノ圖人圖ヲ也簿ハ文籍ヲ也

主上御中陰忌日佛

初七日某師二七日弥勒三七日千手四七日地蔵五七日尺迦六七日不動七七日阿弥陀

薨卒ノ

喪葬令曰凡百官身亡ハ親王及三位以上ヲ称薨ト薨ハ以上及皇親ヲ称卒ト六位以下ハ達於庶人ヲ称死ト

法要三具足ノ

佛ノ右ニ花瓶左ニ三ツル前ニ香炉

花蔓代

佛在世十ドノ時蛇ナドヲ丸ノワゲテノ花蔓ニシ

或ハ女ノカヅラノ花蔓ニシタルヲモアルト見タリ
ソレ故蔓ノ字ヲ用ヒ時ニアタリ一様ニハキワメラレ
又ヨトミヘタリソレヲ中古ヨリカヘテ三ツケ
ニスル故ニ花蔓代トカキ付ケ

ヤトリ曰曰
縑縗綯

ウスキ又ノヨシ

五山ノ

靈亀山 天龍寺
萬年山 相国寺
東山 建仁寺
恵日山 東福寺
万壽寺

瑞龍山 南禪寺 妙心寺 大徳寺 等ハ五山ノ上ノ

南禪寺開山

普門無關ト号ス 仏心禪師ト諡ス

東福寺開山

円爾ト号ス 聖一国師ト諡ス 国師号ノ始ク

建仁寺開山

宋ノ遺隆大覚禪師ト諡ス 禪師号ノ始ク

世良田七乗寺開山

榮朝

御神楽ノ時陪從ヲ召人麦

陪從トハ本ヨリ神楽ニモメガヒツケ定ムルヲ
參役スル者ヲ云ヘリ召人トハ陪從ノ外ニ臨時ニ
選ビ召サレ役ヲツトムル者ヲ云ヘリ召人ハ主上
書併ニ御覧ヲ
ルヘシ

追儺（ツイナ）ノ始

類聚國史ニ文武天皇慶雲三年是年
天下諸國疫疾百姓多死始作大儺

椒房（ショウ）

后宮ノ別名

竹園

親王ノ別名

三台

大臣ノ別名

九棘

上達部ノ別名

七僧ノ支

講師讀師究竟三礼唄散花堂達是ノ七僧ト

天台四門

有門三藏教　空門通教　非有非空門　四教

帝有亦空門別教

同四教

三藏教　通教　同教　別教

小驚

御即位詔旨如圓扇黒漆柄在平文

此平文ハ片黒又ハ片ト云ル事ヲ平文ト云ヲ表紋ノ

時簡有枕

此枕ハ下ニ中ノ木ノ支ノ下ニ木ノ半ノ

止ニ時簡ノ〳〵セノ〳〵ト云支〳〵

蠶蟲（ニカ）　蜾蠃（カ）　衣魚　紙魚（モトヨリ）　尤右音

雜色八人

藏人所ノ雜色トモ文官ノ子孫或ハ可然諸大夫ノ子姪ヲ補スル所ニ候ス人

先ハ武官ノ文官ト定メガタキ雜色ヨリハヲトレル者ヲ補スル者ヲ

小舍人

先ハ武官歟ト近代ハ文官歟ト奏數上ニ六人下ニ二人或ハ四人

鈍色ノ人

傳ニ布絶ニ鈍色ヲ下サルヽヨリ有リ今ノ世ノ人ヒロモト云モ云ヒ元来ハ色ノヤウリスヽキ

ハナヌ
薄色

寺方ニ晩ニツク鐘ノ

三皇五帝

伏犧神農黄帝　少昊顓頊高辛堯舜

鎧（ヨロヒ）ノ一

藤威トハ紫綟ニ藤深ク系ヲ組交綴也帝王ヨリ御鎧ヲ
十九ヘシ
四世鎧トハ源氏ハ黒糸威手家ハ紫系威藤氏青黄
糸威楯氏ハ黄糸綴ヲ本トス清和天皇御時定給
脇立ハ神功皇后三韓ヲ戦ヒ給時御懐船ノ名御鎧
不足其時高良大明神ノ御袖ヲ脇ニ當給
是ヨリ脇立始ル此袖ノスソノ文菱也是ヲ
表ノ始テ
端ノ白甲ノ鍬形清見原天皇ノ御時ヨリ始ル

紫紅ト紅梅ト黄色等也妻白ハ青黄赤白黒ニテ
白也
紫スソコトハ藤二枚ヲ紺ニテ綴餘ハ皆紫也
紅藤紺トハ上紅ニ威ノ下ニ枚紫也
火綴トハ紅ノ糸ヲ以綴白糸ヲ以耳糸ヲ川也
縦ノ糸紅糸トモ耳糸赤糸班ハ赤糸威也
比魚威トハ紅ノ糸ニテヒドシ札頭ニ銀ノ霞輪
ヲカケル比魚ノ頭ヲ無ヲ以ヌリ故ニ名付也
志那皮ヲトシトハ平城天皇ノ御時武蔵国
大畑庄ヨリ始テ獻スル皮也始ハ黄波其後
索ヲ以巻而大至ヲ以深其後蚊蛤ニテ色ヲ

上紋ハ表裏四色ヲ持ル四器名皮ト云ヒ
武日トハ三ツ日ノ鎧ヲ云ヘリ
六音威トハ青黄赤白黒ノ五色ニテ各共色薄
色ヲ添ヲ云也濃色ハ体也音ハ薄色ハ用也韻
也色ハ音ニ通ス五色ヲ次テ五音ニ通スル故ニ五
音威ト云ヘリ

甲冑始ノ巻

甲冑等始ニハ黄帝造始メ同典尤造トモ
云ヘリ吾朝ニハ神武天皇日向国宮崎ニテ
造初メ給仍筑紫鎧ト云ヒ已来日也故ニ茂已
ノ日ヲ用ル秘ノ也
其刀剣甲冑ハ南無鉄性光音威徳天王ノ変
作又ハ十六善神将四天ハ天等ノ化現也

廿決ノ巻

廿ハイサコ決ハユルシ諸ノ
分ヲ廿決ト云ヘリ善悪ニツニ取文ヘテ善ハ善
トシ悪ハ悪ト分別スルハタトヘハ石ヲユリテ金
ト石トシ分ツカ如キヲリソロユルト讀ル

成敗ニ入
成ハ就也敗ハ破也善ヲハ成就シ悪ヲハ敗破スル義
也左傳ニ勸善懲悪ト云ヘリ
法妻ニ入
山門四ケ大法ハ安鎮護国家盛先七佛薬師普賢延
命
東寺大法ハ孔雀經仁王經請雨經普賢延命
三井大法ハ尊星王法花法金剛童子
六觀音
千手十一面 准胝 正觀音 馬頭 如意輪

要害ニ入
我ヲメニハ肝要敵ノヲメニハ害アル心

大神人
イヲジモント云祇園ノ召使ノ者ヲ谷詰ニツルヲサ
ト云者ノ事ニ

三家ノ台輔
三家ノ關院花山院中院ヲ云ヒ台ハ三台ノ事ニテ輔
帝業ヲ輔佐スル義ノ

五所曲皐

五楊家ノ十七ヲ云カ曲皐ト八指政ノ位ノ居所ヲ
指テ云ヘリ周公旦ノ魯国ニ封シタレハ曲皐ニ居セ
ラルヽヲ周公旦指政ノ初十七八今ニ至テ用ルノ
ヲ云ヘリ

十死一生ノ日

丙己丑丑ヲ正月ヨリ次第ニ当ルヲ
云

万死一生ノ日

戊丙申未午巳辰卯寅丑子亥ト正月ヨリ十二
月ニ至ルマテニアツルヲ云

魯般カ雲梯

魯般ト八公輸子ト云ル者ノ名ヲ楚ヨリ宋ヲ攻
ントスル時ニ天下第一ノ巧匠十九魯般ニ命メ雲ニ
モ昇ルヘキホトノ高キ梯ヲ用意セラレタレハ宋
ニ墨子ト云者カ有テ
ソノ戦ニハ負ケンタメソ

二間ノ御本尊

土方ノ佐八仁壽殿ノ観音供ノ支度弘法大師ノ
奏聞ニ依テ承和元年ヨリ始メ東寺ノ七者ニ
テ勤ムソノ後永七元年正月ヨリ此供ヲ清涼

殿ニヲカル〻

梟悪

柳文弥三十九こほこ悉康曰梟ハ鳥ノ名也母ヲ食スル不孝ノ悪鳥ナレハ尓云也

襖袴（アフハカマ）

襖ハ字アワトヨム〻スアフノハカマニヘリノオホクナリ

布〻色ハアワキモ有〻白キモ有〻

前帳大口

常ノ大口ヲニヘシウシロニシシヌル者〻仙院幷女モ着

位記〻詞書ニ制書如宣請（セイホウ）奉

此心ハ奥ニ書ニヨリテ制書右ノ如ト云云請テウケタマハルト云コトハリ〻せイホウ〻ト音ニ讀ナラハスシ

制符外施行謹言

此制ノ心右ニ付ホカニ施行ト云ヲ文宣ハ中務ヲ以テ式ヲニ告武宣ハ中務ヲ以テ外ニ施行ト書〻

御可（セイカ）　月日辰時

せイカトハせイシニルストノ時ト云ヘリ〻月日辰時ハ右ノ施行

制書処右符到奉行

制書ノ心ハ前符ノ如メリテ行フト云心ナリ（音ヲ讀ム）

十善ノ君

殺生偸盗邪婬ノ三ツハ身業ノ罪也妄語綺語
惡口両舌ノ四ハ口業ノ罪也貪欲瞋恚愚癡ノ
三ツハ意ノ上ノ罪也此十惡ヲ翻メ再ヒ犯サ
ザルヲ十善ト云此十善ノ中ニ上中下ノ三品アリ下
ノ十善ノ報ハ偸盤ノ報ヲ得中品ノ十善ノ報ハ
三ノ人ノ大国ノ王ト成上品ノ十善ノ功徳
ニヨリテハ天上ノ報ヲ得ルナリ故ニ天子ヲハ十

善ノ君ト申ス

河關梨ノ云ク大平元年大会中ノ巻ニ有
善ヲ見隠ノ中ニ言ヲ云ヒ譯云正ク言ヲ河ト遮利耶ト
此云ヒ軌範ト旧云ニ於ケル善ヲハ法中ノ教授令ル名ヲ河闍梨ト
也

五刑ノ云ク 大平元大会中十ノ巻ノ内ニ見ル

尚書ノ刑ノ篇ニ云ク劓ノ其ノ額ニ向ヒ墨ヲ入レ截ノ鼻ヲ割ノ
鼻ノ刑ニ定ル也劓ノ刑ニ男子ハ割勢ニ婦人ハ幽閉
次ノ死ノ刑ニ大辟ハ死刑ノ名也云云額ノ中ヨリ三ツスヽ

ヲ入ルヲ墨ト云鼻ヲソグヲ劓ト云足ノスケヲ
メツヲ刖ト云男ハ勢カヲ
ブルヲ宮ト云大辟ハ死刑ノ
墨ノ類一千劓二千
三百ノ品有リ是ヲ
周師ニ与ヘ

大平元大会廿四下二有

祖庭事苑七云西域之
邪正俱有二拳周歸依乃
愍北齊高僧法常ハ
く号ル二常公一始テ
諫宣流燭菩薩戒師故
神秀入ル宗師ト及中
師ト一

壁草

古本壁ヲ生ル草ノ
日本ノ人數ノ
上宮太子ノ日本ノ人民ヲ數玉フニ男女幼子都
テ四百九十二万九千八百九十人也其後宇
多代ノ帝又數ヘ本朝ノ人民ヲ八百六十三万七

大平元大会元九下二有

イツヘニテクサ

ヤシノ

ケイ

エリ

ヤカベ

カゾヘ

クシカラヲボル物

女十四人也ト云云男子幼子共総也往昔ヨリ
已来依本朝政正人民増数如是宜ヒト集ル
人民於一所ニ無ル透ル空ヌレハ四方ニ十町四方ニ
不充満其故ハ一町四方ノ人ノ等ノ数九三千二百人也角ヲ
也角ノ一町四方ノ数九三千二百人也角ヲ
二十町四方ノ人ノ等ノ数九二千七百二十人
一万六千人也又物ノ契仕タル之等ノ数九三
習四方ニ九人也然レハ一町四方ニハ三万二千四百
人也然二十町四方ニハ三万二千四百
幾ノ也ケ周ニ透ルモナリ無ケレハ幾ノ十万

トヤ知十二シ

大平元大会字巻二有

童場ノ始リノ事

鹿園院義満公未幼生ノ時管領細川武蔵守
頼之始テ置ク童場ト名リ後ニ
童場ト名リ又ハ俳諧トモ云又ハ童謀トモ云

大鷹之才芸

文選字巻二陳謂其鷹矣之才ニ凡有可往
トアリ鷹ハ凡ソ胆太ク思ヒ大ハ利バカ有テ威ヲ
十人若シ凡有トハ選ノ中ノ六匹ニハ臍ヲ凡有
ト謂ヘル為歟事トアリ

テンスイ
激吹ミ〳〵　太平ヲ大全

三メリニ吹クトソ齊ノ宣王人ソノ竽ヲ吹
セイ　セイ　セイ　ヲ
ヒメタリ南郭処士ト云者王ノメメニ竽ヲ吹
ク　ショ　ク　ク　ク
ケリ一殿歴アツテ粟ヲ三百鈴シリ宣
ゼン　カン　ア　ア　ア

衛尉並太僕並尉鷹宇正廿府司農晉
而食志ニ曰ク古者天子諸侯皆名執政大臣
曰正卿ト仍周後始有三公九卿ノ号ヲ九卿
本無卿ノ字ヲ云ヒ漢始テ加ヘ卿ノ晉書ニ乃唐初ニ
撰或ハ加ヘ卿ノ字ヲ者ハ又奉漢以来君呼ニ臣以
卿ヲ敵體相呼ヒモ無為卿ト蕃羞貴它也云ヒ
漢朝ニハ九卿ニ十ゾ
九卿ト云ト見タリ

風聞ニハ

月之卷月

十川キクト讀ケリ晉書達國論注云風采也采ハトル
聽高旅ニハ言也云云